
GSお家再興物語

夏休みの宿題

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

GS お家再興物語

【Nコード】

N6095S

【作者名】

夏休みの宿題

【あらすじ】

何の因果か、GSの世界に転生を果たした主人公。

しかし、GSの才能はどうやらなかったようで、

3回戦であえなく敗退、その時の怪我により霊能を失う。

没落したお家を再興するため、最愛の兄弟を守るため。

GS試験の変更を行う物語。

作者の独自解釈、オリ設定がかなりありますので、

注意してお読みください。

なろうのGS物に触発され、書いてみたGS物です。
更新は亀のごととなります。

プロローグ

やっとここまで来たのに・・・

ようやく、お家再興の道が開けたと思ったのに・・・

これで、お仕舞いなのかああああああ

父さん、母さん、妹、弟よ

弱い兄ちゃんでごめんなあああああああ

守天寺 守 20歳 GS試験3回戦であえなく敗退。

試験で負った傷が元で霊能力を失う。

それにより、GS免許取基準を満たしていたが、

GS免許は発行されなかった。

この物語は、霊能力を失った青年がそれでもお家再興を願う逆境物語かも？

俺、守天寺 守は転生者だ。

そして、GS美神の世界に転生した。

よくある、2次小説なんかでは神様の暇つぶしだとか、

ミスで転生させられたりするみたいけど、

俺の場合は、そんなものないみたいだ。

気がついたら、守天寺家に生まれていた。

前世の記憶がはっきりしたのは、5歳くらいだったと思う。

そこからは、原作介入を目指して、一心不乱に修行をした。

運よく、守天寺家は旧家と言われる霊能の家だったのも幸いした。

その為、GSになると言った時は、

両親が大変喜んだ。

これで、俺TRUEで原作介入して、横島・ルシオラエンドにして

やるぜえ！

なんて、考えてた頃が懐かしい。

ここで、まず守天寺家について話そうと思う。

守天寺家は、昔は名門と呼ばれ霊能の大家だった。

主な霊能は、結界術とヒーリング。

男は結界術に、女はヒーリングに特化する霊能のようだ。

昔はという表現なのは、現在は没落してしまったからだ。その没落理由だが、簡単な話だ。

守天寺家の霊能だと、GS試験に合格出来ないからだ。

いくら強固な結界を張ろうとも、霊的攻撃力は皆無。

しかも、結界術に特化してるせいで、霊的格闘は微妙。

守天寺の女は、ヒーリングに特化しているので、

争いごと事態が苦手だ。

ヒーリングに必要なのは、相手を慈しみ、労わる心なのだそうだ。

霊的格闘を学ぶ事は、ヒーリング能力の低下に繋がる。

そんな、守天寺家の人間が、

GS試験の対人戦闘に勝てるわけがないのは自明の理。

GS試験制定後、守天寺家は坂を転がるように没落していった。

現在、両親はGS助手をしながらなんとか食いつないでいるが、

このGS助手っていう立場がまた厄介なのだ。

GS助手は、GSの補佐的立場にある。

守天寺家の霊能は、守護や補佐といった立場でこそ最大の力を発揮する。

仕事としては、守天寺家にぴったりの仕事である。

しかし、元とはいえ霊能の大家。

C級以下のGSでは、元大家を部下として使うというのが、

立場的に難しいらしい。

こちらの立場としては、そんなの気にせず助手として使ってくれという感じなのだが。

B級、A級となると、霊能の大家と言われる家の出身が多く、こちらでも元大家に遠慮して雇うことはしない。

残ったのは、そんな守天寺の弱みに付け込み、安くGS助手として扱おうとするGSばかり。

横島忠夫並の薄給で仕事をする両親。

そんな、両親を見て育った俺は、

絶対にGS試験に合格して、守天寺家を再興しようと決めていた。で、冒頭に戻る。

試験終了後、両親が泣いていた。

妹も、弟も泣いていた。

全治3カ月の重傷だった。

確かに、俺は霊的格闘技の才能はなかったかもしれない。

でも、結界術を捨ててまで霊的格闘技を学んだんだ。

なのに、なんでGS試験に合格出来ないんだ。

まだ、俺はいい。

霊能者として才能がなかったと思えばいい。

でも、妹と弟は違う。

こいつらは、天才だ。

守天寺家史上最高の霊能者になれる資質がある。

俺が、GSにさえなれば、

守天寺を食い物にする輩はいなくなるはずだった。

なのに、このままでは妹も弟も食い物にされる。

こんなのは間違ってる。

試験のほつが間違ってるんだ。

GS試験制度を変えてやる。

絶対に変えてやる。

G S資格さえあれば、妹とも弟も超一流の霊能者になれるんだ。

絶対に变えてやるからなあああああああああああああああああああ

第1話（前書き）

GS美神の原作を持っていないので、
ところどころ原作と違ったり、
独自解釈が多くなっています。

第1話

GS試験終了後、暫くは落ち込んでいた。

GS資格を取得を目指してこの15年間生きてきた。

その夢が破れたのだから、それも仕方ない。

しかも、治療にあたったヒーラーが曰く、

怪我の影響で、霊基構造がズタズタになっているとの話だ。

それにより、霊力を練ることが出来なくなった。

今後俺は、オカルト業界で生きていくことは出来ないだろう。

その話を聞いた両親と兄妹は、人目もはばからず泣いた。

俺も、悔しくて悲しくて泣いた。

一週間くらい何もする気が起きなかった。

しかし、いつまでも落ち込んでいる時間など俺にはなかった。

俺は、GS資格取得に賭けていた両親の期待を裏切ってしまったのだ。

このままでは、守天寺は食いつぶされてしまう。

現在も、食い物にされてるのだ。

俺は、大切な家族を守るために守天寺の結界術ではなく霊的格闘を学んだ。

それは、家族を守りたかったから。

優しい両親、甘えん坊の妹、すこし生意気な弟。

大切な、大切な家族を守るために、なりふり構わず霊的格闘の修行したのだ。

勿論、長子として結界術を学んでほしいという反対はあった。

なので、最初は結界術に重きを置いて修行をした。

しかし、10歳年下の弟の堅久が正統になってからは、霊的格闘一辺倒になった。

それは、弟が結界術の天才だったからだ。

結界術、それは結界札を用いて結界をはる技術だ。

結界札は、扱う者の霊力、技量でその結界の強度が変わる。

守天寺家は、結界札の力を100%以上引出し、

何びとたりとも侵されぬ、強固な結界を作り出すことが出来る一族なのだ。

故に、守天寺の才能とは、どれだけ強固な結界を張れるかにかかっている。

俺の結界は、可もなく不可もなくといった平平凡凡なものだった。それでも、並の霊能者には破れないほど強固な結界なのだ。

最初に弟の才能に気がついたのは俺だ。

ある日、いつものように結界術の練習をしていた。

勿論、両親の目を盗んで霊的格闘の修行はしていたのだが。

5歳になった豎久は、そんな俺のマネをしたかったのかもしれない。

「兄さん、俺も兄さんみたいに修行したい。」

そう言ってきたのだ。

俺は5歳から霊能の修行をしていた。

簡単なものなら、構わないだろうと、弟に結界札を渡したのだ。

勿論、弟が結界を張れるとは思っていなかった。

俺も結界を張れるようになったのは、10歳を超えてからだだったからだ。

しかし、俺の予想は良い意味で裏切られた。

豎久は、俺の教えた手順で術を行使し、見事に結界を張って見せた。

しかも、俺と同等の結界を・・・

慌てた俺は、急いで父さんに報告をした。

守天寺の正統を豎久にして欲しいと。

その後、豎久の力を確認して、豎久は守天寺の正統後継者となった。この判断は、今でも間違っていないと思っている。今では、10歳で俺を超える結界術師になっているのだから。

GS試験から、ひと月ほどで経って大分心の整理がついた。これからの事を考えなければならない。

最初こそ、原作介入を目指して修行していたが、もはや、原作介入の意思はまったくなかった。

俺が、介入することで物語が変わってしまう事を恐れたのだ。もし、アシユタアロスに負けるような事があつたら、

この世界は崩壊してしまう。

大事な家族を巻き込んでまで、原作介入する意思は俺にはなかった。しかし、もう形振り構っている場合ではなかった。

極力原作崩壊しないくらいに介入するしかない。

何故、原作に介入しなければならないかと言うと、

GS美神の登場人物のほとんどが、GS協会に強い発言力を持っているからだ。

六道家 ・言わずと知れた霊能の大家

美神家 ・新興だが、その実力は日本随一

唐巢神父 ・日本で2人しかいないS級GSの一人

小笠原エミ ・S級にもっとも近いと言われているA級GS

魔鈴めぐみ ・世界で唯一の魔女

氷室キヌ ・世界で4人しかいないネクロマンサー

横島家 ・人界唯一の文珠使い、母はGMでお馴染み村枝の紅
ユリ

ざっとあげてもこれだけの人材が揃っている。

これだけの力があれば、GS協会を敵に回し、勝利することも可能

なのではないか？

そもそも、現在のGS試験については、首を傾げることが多かった。対人格闘がいくら優れていても、除霊にはほとんど関係がないのだ。除霊の際、悪霊と格闘するなんてことは無い。

基本的には、結界を張り、破魔札で弱体化させ、吸引札に封印する。これが除霊の基本だ。

勿論、霊的攻撃力があるにこしたことはない。

破魔札の値段は、目が飛び出る位高価なものなのだから。

破魔札の代わりに、神通棍や霊波砲を使えば経費削減になる。

しかし、絶対になければならないものでもない。

霊力さえあれば、破魔札で十分処理できるのだから。

魔族と戦う場合でも、霊的格闘なんて意味がないのだ。

原作で、魔族と殴りあえた人物なんて魔装術を使えた雪之丞くらいだ。

しかし、精霊石ですら目くらましにしかない相手に、

人間の霊力で攻撃したところで、効果はないだろう。

何より、個人に対してのみGS免許発行というのが気に入らない。

何故、チームでのGS免許発行がないのかと。

例えば、GSの登場人物では、おキヌちゃんだ。

あの子は、個人での除霊は不可能だと思っている。

雑霊程度なら問題ないかもしれないが、

霊団ともなれば、いくらネクロマンサーであろうと、

すぐに成仏させることは出来ないだろう。

その間、ネクロマンサーを守るべきパートナーが必要だ。

このパートナーは守護専門か防衛術専門の術者が望ましいだろう。

勿論、個人で結界を張ることも出来るだろうが、

性質上、霊力を音に変換することが優れているネクロマンサーに、強固な結界をはることは出来ないだろう。

つまり、2人で一人前という事になる。

それに、現在のGS試験ではネクロマンサーはGS資格習得は難しいはずだ。

GS試験は、前衛型にもっとも有利な試験となっている。

ネクロマンサーがいかに優れた霊能でも、

現在のGS試験を突破は出来ない。

ネクロマンサーは霊体には、とてつもない威力を発揮するが、人体にはほとんど影響することはないからだ。

しかも、ネクロマンサーに必要なのは、

霊の悲しみを理解し、慈しみ、癒す心だと言われている。

霊的格闘＝暴力と破壊だ。

そんなものを学ぶことは、

ネクロマンサーの能力弱体化に繋がるのではないだろうか？

そもそも、除霊では万能型が求められている。

万能型でない霊能者は、チームを組むことで補っている。

なのに、GS試験では前衛型に有利な点がそもそも間違ってる。

そして、後衛型や支援型に霊的格闘という、

前衛の技術を求めることがそもその間違いだ。

霊的格闘の修行をすることで、本来学すべき技術が疎かになる。

その典型的な失敗例が俺だろう。

いいだろう。

認めよう。

俺のが考えが間違っていたんだ。

守天寺の者が霊的格闘を求めたこと自体が間違だったんだ。

守天寺の結界術師として、ありのままでGS免許習得目指せばよかったんだ。

兄妹達よ待つてろ~~~~~

兄ちゃん頑張るからなああああああああ

第2話

まずは、GS試験自体の見直しを考えよう。

第一に、第一試験の霊気測定

霊力測定装置があるにもかかわらず、個人の裁量で霊力測定を行って
いる。

機械が絶対とは言わないが、

近くに強い霊気を発する人間がいれば、

その影響で、合格基準を満たしていても不合格になる可能性がある。

合格の他に、補欠合格を作り霊力測定装置で再度調べること、

優秀なGS候補の目を潰すことなく拾い上げることが出来るようになる。

第二に、三回戦以降ギブアップと試合放棄不可

これは、絶対改善項目だ。

何故、三回戦以降ギブアップ不可なのかが理解できない。

三回戦以降は、一応GS見習いになる実力があるということだ。

しかし、ギブアップ不可というこは、

三回戦以降の戦いでは、再起不能な怪我を負う可能性があるのだ。

実際、俺は霊能者としては再起不能になった。

何故、少ないGS取得者同時潰しあわないといけないのか理解できない。
ない。

前途あるGS資格取得者を無理に潰す利点がない。

何より、勝てないとわかったら逃げるのも手なのだから。

原作でも、美神や横島は戦略的撤退を行っている。

勝てない相手に無理やり向かっていくのは、自殺行為でしかない。

そして、試合放棄不可もだ。

これは、俺だけかもしれないが、

第二回戦ですべてを出しつくしてしまった。

その所为で、第三回戦は、ほとんど霊力が空の状態で試合に臨まなければならなくなった。

俺の行いは、自殺行為と呼べるものだっただろう。

そして、相手も悪かった。

かなり残虐な性格だったようだ。

俺は、適当に攻撃を受けてダウンするつもりだったのだが、

俺より数段格上の、格闘技術で弄られ、

ダウンすることも出来ず、

最後は、至近距離から霊波砲を叩き込まれた。

霊力が空の状態で霊波砲を受けた俺は、霊気構造がズタズタとなり再帰不能になった。

この件は、少し上で問題になったようだ。

審判が止めるべきだったと。

しかし、事なかれ主義のGS協会は不問としたようだ。

自己判断で試合に臨んだと。

試合中何があるかと、本人の自己責任だと。

しかし、誰だって第三回戦まで来たら、試合放棄なんてしたくない。

GS免許剥奪になるからだ。

故意に試合放棄することが、試験として問題あるというなら、

ドクターストップ制度を導入すればいいだけの話だ。

試合の安全面に気を配らない

この辺りは、明らかなGS協会の怠慢だろう。

第三に、GS試験が性質の問題

やはり、前衛型に有利すぎるという点だろう。

だからと言って、前衛に不利な試験にしろとは思わない。

前衛型用の試験、後衛型用試験、分けるべきだろう。

前衛型用の試験なら、現行のルールで問題ないだろう。

上記のルール改正を行えば、安全に試験が行えるはずだ。

逆に、後衛型はその能力を試験管の前で使用し、

G S見習いとして通用するか試験管に判断させればいい。

ネクロマンサー、精神感応、呪術、結界術といった後衛職に靈的格

闘は必要ない。

こういった後衛職の試験制度を作り出せば、

前衛に不向きな人間が、無駄な靈的格闘を学ぶ必要がなくなり、

自分の特技を伸ばすことで、G S免許習得が可能になる。

G S試験の性質上どうしても合格出来ない人間はいる。

そんな人間が、もぐりのG Sとなるのは実は珍しくない。

この後衛試験制度の導入により、もぐりのG Sを減らすことも可能になる。

第四に、支援型（ヒーリング専門）G Sの営業許可

これは、あまり存在しないのだが、

うちの妹の優子のような存在への営業許可だ。

除霊の片手間に、ヒーリングを学ぶものはいるが、

ヒーリング能力を専門に学ぶ人間は少ない。

それは、ヒーリングが除霊になんの役にも立たないからだ。

しかし、ここで考えて欲しい。

一定のヒーリング能力があれば、どれだけの人間を助けることが出来るだろう。

例えば、救急車にヒーラーが乗っていれば、

応急処置として、ヒーリングを行うことことで、DOA（Dead on Arrival「病院到着時死亡」）を限りなく減らすことが出来るはずだ。

また、不治の病と言われる病気にも効果を発揮する可能性もある。しかし、そんな事をするヒーラはいない。

それは、霊能力を使つての営利目的で事業を行うのはGS免許持ちに限られていからだ。

勿論、師匠に一人前と認められないと無理なのだが。

原作の横島が、美神に認められないのでずっと見習いの状態だった。一人前のGSになったものが、そんな慈善事業みたいな事をするはずがない。

しかし、ここで支援型GSの営業許可を認めればどうだろう。

戦闘型GSほど高い給金を得ることは出来ないだろうが、

医者並の給料を得ることは可能だろう。

しかも、安全に収入を得ることが出来るようになる。

戦闘型GSに不向きな人間でも、支援型GS制度があれば、より良い人材が育ち、迅速な治療を行うことで、

除霊中の怪我が元で命を落とすGSの数も減少するはずだ。

この考えを実行に移せば、

優子も堅久も一流のGSとして生きていくことが出来る筈だ。

兄ちゃん頑張るぞおおおおおおおお

第3話

GS試験に敗れてからもう4年半がたった。
あれから、俺は勉強しまくった。

実際前世では、大学も出ていたので、
合格するだけなら問題はなかった。

しかし、俺は家の事を考え特待生枠を狙うため、
受験を1年遅らせたのだ。

一年半みっちり勉強した甲斐もあり、
なんとか、特待生枠で合格することが出来た。

合格したのは、六道大学だ。

学部は、オカルト研究学部を専攻した。

俺が考えたGS試験制度の変更には、

霊能の名門六道女学院（以下六女）で優秀な後衛型や支援型を育て
るのが、

一番だと考えたからだ。

六女の生徒は旧家や名家の子が大勢入学する。

教師として、六女で優秀な後衛型や支援型を育てる一方で、
生徒達にGS試験の制度変更を訴えていけば、

いずれはGS協会も重い腰をあげるのでは？と考えたからだ。

それには、六道大学で教師の資格を取ったほうが、

六女就職に有利だと考えたからだ。

そして、この考えは間違っていなかった。

原作では、霊的格闘のクラス対抗戦などを描いていたが、
まさか、霊的格闘以外の教育をほとんどしていないとは思わなかつ
た。

これでは、優秀な後衛型や支援型が育つはずがない。

まるでGS免許取得専門学校ではないか。

専門学校は、資格を取る知識や技術を教えるだけで、教わった事は、社会に出ても役に立たない場合が多い。

六女でも、除霊に必要な知識は教えているが、

実際の除霊を行うのは、1・2・3年の臨海学校の3回のみ。

これでは、実際の除霊で霊的格闘が如何に無意味か知るのは、GS免許習得後となるだろう。

実際に調べたみた結果。

六女からは、毎年5〜10名の合格者をだしている。

そのうち、三分の一が3年以内にGSを廃業している。

残りのも5年以内にはほとんどが廃業している。

そして、六女出身でA級ランクまで達した者は、

美神美智恵、令子、を入れてもたったの4人しかない。

ほとんどがC級かD級ランクで現役を引退している。

まさに、この六女こそがGS試験制度の影響をもろに受けている。

原作の描写でも六女の生徒は、霊的格闘が得意な子ばかりではなかったはずだ。

確か、精神感応、結界術、ヒーリングが得な子もいたはずだ。

そういった子に、霊的格闘を主に教えるせいで、

本人に合った霊能を鍛えることが出来ずに卒業しているOGも多いはずだ。

だからこそ、六女OGのGSは離職率が高いのだとすれば、

この改善案により、優秀な後衛型や支援型が育てば、

六女ブランドは更に高まるだろうからだ。

後は、俺が六女に就職出来るかどうかだ。

六女就職のための裏技は用意してあるんだけどな。

霊力のなくなった俺では、霊能の修行をつけてあげることが出来ない。

一般の教師として採用を目指さなければならない。
しかし、我が家には、結界術とヒーリングの秘伝書があったりするのだ。

勿論、辺り触りのない部分のみを公開するつもりだ。
父さんの許可もすっかりとってあたりする。

これの公開の条件として、教員採用を得ることも可能だろう。
六道の教員採用試験は来年だから、
それまで、しっかりと対策を練れば、
この裏技は、使わないで済むだろう。

ところで、先月出した論文がまだ返ってこないんだよな。
書いた内容は、除霊での役割分担制の必要性について。

万能な能力なんてない。

それこそ、文殊くらいだ。

万能を求めようとしても、人には向き不向きがある。

ならその特性を伸ばすために、除霊を役割分担制にするべきである。

故に、個人で事務所を持つよりも、

複数の人間が組んで事務所を持ち、除霊に当たるべきだ。

前衛、後衛、補助、

こういった役割分を果たすことで、除霊成功率と安全性があがるのではないか。

こんな感じの論文を提出したんだけど、

俺の提出する論文っていつも評価低いんだよな。

今だに返って来ないのって、もしかして単位落としたのかな・・・

うーんやっぱこの子の論文は面白いわ

確かに、除霊では役割分担が必要かもしれないわね

誰でもが万能型になれる訳じゃないのよね

D級の〱GSでも〱チームを組んで万能型に近づけば〱C〱Bランク位のお仕事は〱

任せられるようになるかもしれないわ〱

経費の問題もあるから〱簡単にはいかないだろうけど〱

考えれば〱当り前の事なのよね〱

強力な悪霊に対しては〱B〱A級GS同士共同して作業に当たるけど〱

即席のチームの場合には〱連携がうまくいかずに〱

足を引っ張りあうこともあったりするのよね〱

その点〱日頃からチームで除霊を行ってれば〱

将来的に〱B〱A級になった時にも〱

協力することを〱知っているから〱

足の引っ張り合いも〱少なくなるはずよね〱

B級〱S級のGSには必要ないかもしれないけど〱

D〱C級のGSには、除霊の安全を考えたら、

メリットが多いのよね〱

特に〱死亡率と廃業率の高いC級ランクのGSには〱

必要な措置かもしれないわ〱

C級GSは〱過信や〱慢心からくる除霊の失敗で死んでしまったり〱

自分の力の限界を感じて〱廃業するのが多いのよね〱

この作業分担制により〱チームのメンバーが〱

過信や〱慢心を〱戒めてくれるだろし〱

個人の力には〱限界があるかもしれないけど〱

チーム力を磨くことで〱さらに上に進むことを知る可能性もあるわ〱

問題は〱色々あるけど〱やっぱり面白い考えなのよね〱

守天寺は〱没落したとはいえ〱霊能の大家のはずなのに〱

こんな考えを思いつくなんて〱面白いわ〱。

この前のレポートの〱心霊治療の有効活用方法も〱

面白い考えよね〱

確か〱守天寺の娘さんは〱再来年〱高校生だったわよね〱

次の日何故か俺は、六道大学理事長に呼び出しを食らった。
俺は何もやってないよな？

貴方は、不真面目だから、退学ね。
なんてことはないよな・・・

確かに、オカルト論文の評価低いけど、
それ以外は、真面目にやってるんですよ、理事長

信じてくださあああああああ

何故今まで作業分担制が行われなかったかというと、

原因は、古くからの続く霊能の大家にある。

GSになれる霊能者は、名家や大家といった霊能の家のものがほとんどだ。

故に、プライドが高く、協力することが出来ない。

地球は、自分を中心に回っていると思うような奴が多いので、
除霊の際、チームを組んでも俺が俺がと主導権を握りたがり、
結局は足を引っ張り合うことがある。

原作でも弓かおりがこれに当たるだろう。

彼女も、プライドが高く、自分主導でないと気が済まない。

古くから続く霊能の大家の人間は、得てしてこんな感じの人間が多いのだ。

第4話

六道当主からの呼び出し。

退学の危機かと思っただが、そうではなかった。
しかし、人生の危機に陥ってしまったようだ。

「どうも初めまして、守天寺 守といます。

今回の呼び出しですが、こういった要件でしょうか？」

理事長に呼び出しを食らったはずののだが、
何故か、六道当主が待ち構えていた。

六道財閥のトップに呼び出されたのだ。

俺は終わったと思った。

「私は〴〵六道48代目当主の六道冥菜よ〴〵

そんなに固くならなくていいのよ〴〵

今日は〴〵ちよつとお話を聞きたかっただけなのよ〴〵」

そう言つて、六道当主は今回の呼び出しについて説明してくれた。

別段、成績不振で退学ということではなく、

俺の論文を評価してくれたようで、詳しい話を聞きたいということ
だった。

「貴方が前に書いた〴〵精神感応能力の論文だけど〴〵

六道のオカルト研究開発部門（以下オ力研）のほうで〴〵

実証実験させてもらったわ〴〵

勝手にやって申し訳ないんだけど〴〵あのままだと推測の域を出ないのよ〴〵

なので実証データが欲しかったのよ
「勿論、実験終了後は、貴方の案だっことは、発表するつもりよ」

これは、原作の人間以上を論文にして発表したただけなので、俺としては、どうでもいいことだった。
GS 同士が、チームを組んで除霊に当たる有用性を発表したかっただけなのだ。

「あの論文は、強力な精神感应能力を持つ者がいなければ、実証するのは不可能だったので、こちらとしては、大変助かりました。」

「確かに、精神感应能力は、それだけでは、除霊に不向きな能力だけど、貴方の論文が実証されれば、かなり有用な能力になるのよね、特に、オカルトGメンなんかは欲しがらんじやないかしら」

「オカルトGメンですか？
日本には支部がありませんが・・・」

オカルトGメンが日本支部を作るのは、今から約数年後だ。
3年以内には設立されるはずだが。
まあ、六道家ならすでに情報を掴んでる可能性はあるが。

「そのうち出来るわよ」
ところで、今までの守天寺君の論文を読むと、GSの現状に不満があるようなんだけど、

その辺りを教えて貰えないかしら」

確かに、俺の論文からはそういった考えが見て取れるだろう。
俺の論文の評価が低いのはこれが原因だったりする。
どうすればいい。

六道当主は、GS業界を牛耳っているような人物だ。

そんな人物に、現体制を批難したら俺終わるんじゃないだろうか・

それとも現体制を嘆いているからこそ俺の話を聞こうと思ったのだろうか・・・

どっちなんだ。

判断が付かない。

「大丈夫よ」

現状に不満を持つてるGSなんて意外といふのよ

守天寺家の霊能は結構術と心霊治療よね

現在のGS試験では合格は難しいのがわかるわ

だからこそ霊的格闘ばかりに偏るGS試験をどうにかしたいと思ってる

こうやって心霊治療や精神感応の論文を書いているんじゃないのかしら？

それにちょっと調べさせて貰ったけど

精神感応も心霊治療も自分で実証実験やってるみたいね」

その通りだったりする・・・

ヒーリングにしても、精神感応にしても、

これらの論文は、推測で実証実験を行ってない。

これでは、評価が低くて当たり前なので、

同級生と実証実験を行っている最中なのだ。

六道大学には、六女の霊能科の卒業生も数多く入学している。

GSを諦め、オカルト研究員や一般人として生きる為に大学へ進学してくるのだ。

元六女の同級生などに協力してもらい、ヒーリングのボランティア活動や、精神感応の実験を行っていたりする。

ちなみに、六女の卒業生は進んで協力してくれた。

「そうです。

共同研究として発表しようと思っていたんです。」

「あらゝそれは悪い事をしたわねゝ

精神感応の現段階のデータとか提出してくれたりすると助かるわゝ
もしうちのゝオカ研にゝ就職とか考えてる子がいたらゝ

内定出すって言うておいて貰えるかしらゝ

優秀な人材はゝいくらでも欲しいのよゝ」

「わかりました。

伝えておきます。」

「ところでゝ守天寺君はゝ

うちのオカ研にゝ就職する気があったりするゝ

守天寺君くらいゝ優秀な子が来てくれるならゝおばさん大歓迎なのよゝ」

「すみません。

オカ研に就職するつもりはないんです。

俺は、教師になるつもりなんです。」

「つまりゝ六女の教師を目指してると考えていいのかしらゝ」

「靈力をなくしてしまつたので、難しいのは分かっていますが、GSに不向きな能力でも、考え方や、やり方を変えればGSとして生きていくのは不可能なことではないと教えていきたいんです。」

これは、完全に現体制への批難になつてしまつているが、ここまで調べられては隠すのは無理。ならば、自分の本心を知ってもらうほうがいいだろう。

「そうね、確かにそうかもしれないけど、守天寺君は、靈力をなくしてしまつているのよね、それを、靈能科の教師にするのは難しいわ。」

確かにそうだろう。

難しいのは分かつていた。だが、こつちにも切り札がある。と思つたら

「なので、試験に合格したら、教師として採用しようと思つたわ。」

「試験ですか？」

「試験内容は、」

家庭教師をして欲しいの、

あの子、除霊中に式神をいっつも暴走させて失敗してるから、それを治してあげて欲しいの、

これが、成功したら、守天寺君を、六女の教師として採用するわ、

」

豎之、優子、

どうやら兄ちゃんは地雷を踏んでしまったようです。

あのプツン娘にどうやって教えたらいいのでしょうか？

助けてええええええええええええええええええ

第5話

六道当主、それムリゲーですよ。

光の玉なしに、ゾーマを倒すくらいムリゲーです。

「あの、条件が厳しすぎるのですが・・・
もう少し、どうにかありませんか？」

「でも、靈力も無しに、六道で教師をするなら、
それなりに実績がないと無理よ、
その点、冥子の暴走を治したっていう実績があれば、
守天寺君にも、箔がつくと思うのよね。」

確かにそうだけど、今の俺は靈力煉れないで、
冥子さんがプツンしたら、即死なんです・・・
考えろ、考えろ、考えろ、考えろ、

このままでは、死ぬしかない。

豎之が、正統として跡目を継ぐまでは死ねない。

優子の花嫁衣裳を見るまでは死ねない。

父さんと母さんの金婚式を祝うまでは死ねない。

「わかりました。

どうにか頑張ります。

式神のうまい制御方法を考え付きましたら、こちらから連絡します。
すので

今日のところはこれで失礼させていただきます。」「

「わかったわ、

連絡はここにいられて頂戴。」

連絡先を聞き、理事長室を後にした。

理事長室を後にしてすぐ、共同研究の仲間に連絡した。

最初は、論文提出にはみんな渋っていたが、

オ力研の内定をいうと、みんな喜んでくれたので大丈夫だろう。

いずれ六道から発表される時にも、

みんなの名前は載るだろうから、

研究者として、しっかりと評価されるだろう。

それに、まだ大事な研究内容が残っていたりするしな。

この研究は、金と時間がかかり過ぎるから、

オ力研でみんなに頑張って貰おう。

ちなみに、冥子さん対策はすでに考えてあったりする。

勿論、それは六道で教師として実績を上げたら、

いつかは、こうなるだろうと思つてのことだ。

しかし、方法を鬼道先生に教えて、丸投げするつもりだった。

そうすることによって、鬼道先生と冥子さんがくつつけばいいと思

つていたのだが、

こんな事になるとは、思つてもみなかった。

そのひと月の後、俺は六道邸を訪ねた。

共同研究のみんなは、すでにオ力研から、

色々機材を貸してもらい、

色々な研究に入っている。

実は、この研究だが近く完成するはずだ。

実際には数十年単位の研究が必要だろうが、

3年以内にはドクターカオスが来日する。

そうしたら、家賃を餌に研究を手伝って貰えば、

研究は、かなり進むはずだ。

今年なのか、来年なのか、再来年なのか未定なのは、

原作だと、横島は2年生を何度も繰り返しているし、時間軸がいまいち分らないためだ。
現在、まだ横島は美神除霊事務所に所属していない。
来年か、再来年だと思うのだが・・・
よって俺は実験をまったく手伝っていない。
まあ、みんなから同情的な目で見られ、ただただ頑張れと肩を叩かれたが。

「どうも、こんにちは。」

なんとか方法を考えましたので、
意見を聞いて頂きたく参りました。」

「どうぞ～楽にしていいいのよ～」

「式神12神将の制御方法ですが、
はつきり言いまして、思いつきませんでした。
ですので、別のアプローチを考えました。
冥子さんに向いてる除霊のみを行うことで、
暴走を起させないというのはどうでしょう?。」

「それは～どうゆことかしら～?。」

六道当主、顔は笑ってますが目が笑ってません。
かなり、怖いです・・・

「いえ、冥子さんのお話を聞いて思ったことがあるんです。
冥子さんって除霊が怖いんじゃないかと。」

これは、ずっと思ってたことだ。
あの子は、きっと除霊なんていやいややってるんじゃないかと。

「確かに、冥子には、そうゆう部分があると思うわ、でも、六道次期当主として、そんなことではダメなのよ。」

「それはそうです。」

なので、その辺りもしつかりと考えてきました。

大家として、除霊も行わなければいけないでしょう。

六道の面子を潰さないよう最低限の除霊を行い、

大家として、新しい事に挑戦することによって、

冥子さんを次期当主としてアピールする方法です。

こちらに目を通して貰えますか？」

そついつて、厚みのあるレポート用紙の束を六道当主に渡した。渡したレポートを無言で読む六道当主。

やっぱり、この子は面白いわね、

確かに、これなら大家としての面子も立つし、

冥子自身のいいアピールになるかもしれないわ、

クビラの霊視能力を使つての、霊症選定作業&除霊斡旋業。

これは、GS協会と同じことを六道でしろって事よね、

GS協会に依頼が入った場合、

霊症の有無、規模、ランク付け行わないといけないのよね、

それは、協会所属の霊視担当者が行ふのだけど、

結構適当だったりするのよね、

なので、クビラを使って霊視を行い、正確な情報を元に、

その霊症にあった六道派閥のGSに仕事を斡旋して、

除霊させるか、

GS協会に真つ向からケンカ売ってるわねこれは
実際、六道の力があれば、出来なくもないのよね
霊症選定作業なら、あの子も暴走することはないでしょうしね

バサラを使つてのCランク除霊以下の除霊&GSの育成

バサラだけでも、Cランク程度なら、
単体で除霊出来る場合が多いのよね
吸い込んで終わりだったりするから、
六道に来る依頼つて、大家の名に恥じない
B、Sランクばかりだったりするのよね
冥子には、力だけはあるから任せてるんだけど
だからこそ、任務達成率が低かったり

無破壊達成率が低いのよね

育成の名目で、低ランクの依頼を受けるのは全然悪い事じゃないし
除霊を雇った育成GSに任せて

危険になったら、バサラで吸い込んで終わりにすれば

意外と、安全に育成が出来るかもしれないわ

しかも、自分で霊視した霊症なら、バサラだけで大丈夫なにかも
しっかり分かつてるはずよね

暴走防止に除霊中は、他の式神は、札に封印すればいいのよね
確かに、これはいい案だわ

自身がA級やS級になるのも大事なことで

大家として、後進の育成は高い評価を得ることが出来るのよね

でもここからの案はもっと面白いわね

新しい事に挑戦し成功すること

名家や、大家は、権力を得ることが出来たのよね

メキラ、インダラを使つての災害救助

確かにメキラの力があれば

災害時にどれだけの人間が救えるのかしら

要救助者ごと瞬間移動すればいいわけよね

インダラを使えば危険な場所から逃がすことも可能よね

問題は冥子がその光景を見て暴走しないかが心配だけど

シヨウトラを使つての一般人へのヒーリング

これは冥子にあつてるかもしれない

GS免許持ちによる

心霊治療院の設立なんて面白い考えね

これはもしかすると冥子にあつてるかもしれないわ

免許持ちが一人いれば

他は助手扱いとして雇えばいいのよね

必要なら六道で医者も雇えば病院にもできるわ

ピカラを使つての建築物の解体作業

解体作業にはお金がかかるものだから

ピカラを使えばお金もかからず行うことは出来るわ

でもこれは冥子の暴走への皮肉なのかしら？

30分ほどで、読み終わりこちらを向いた。

制御方法考えろと言われて、

全く別の方向からのアプローチを考えたからお怒りなのかもしれないが、

でも、仕方ないんや

俺だつて死にたくないんじやあああああああ
制御のほうは、鬼道先生が来たら丸投げするんじやあああああ

第6話

試験ですが、一応成功ということで、条件付きですが教員採用を貰いました。というより、よかったんだろうかこれで・・・

「守天寺君のゝ案なんだけどゝ

確かにゝこれならゝ六道の面子も保てるわゝ

暫くはゝ冥子にはゝ霊視を使つての霊症選定作業をメインに仕事をさせようと思うわゝ

これはゝ簡単なお仕事に思われてるけどゝ

本当はゝとても大切なお仕事なのよねゝ

協会の情報が間違つてゐるせいでゝ命を落とすGSがいるくらいなのよねゝ」

現在、協会所属の調査員の霊視能力はあまり高くない。

よつて、霊症の有無、規模によるランク付け程度しか出来ていない。悪霊の能力や霊症の原因といったものは、現場GSに任せっきりのだ。

これにより、食霊など行つた悪霊などは調査から時間がたてば、力を増し、ランクがあがることもあるし、

原因が分かつていれば、解決も容易になつたりする。

強力な霊視能力を使えば、能力や原因といったところまで調査出来ることもある。

「そうですね。

GS協会を市場、現場GSを小売店と考えれば、

よりよい除霊を提供するには、調査を仲卸としたほうがいいでしょ

う。」

仲卸とは、品質と安全を守る為にはならないのだ。低品質なもの、安全性が確認出来ないものなどを、排除する役割を持つ。

勿論、その分お金がかかるのだが。

今は、GS協会から直接GS事務所に仕事を斡旋しているが、GSにも、その仲卸の位置に調査系GSを置くことで、除霊の安全性を上げることが出来るようになる。

以後、六道は霊症調査事務所を設立し、現在の構造を大きく変化させる一因となる。

「それとー心霊治療院もーいい考えよねー

オカルトはー悪霊からー人を守る為のものだけー

GS免許が出来てからー

GSはー悪霊を払うことを主とする考えに傾きすぎていたわねーオカルトを治療に使ったりしてはいけない訳じゃないわー

むしろ、昔はー怪我や病を治す為にー治療札が使われてたくらいなのよー」

これは、守天寺の文献にも載っていた。

昔の治療は、心霊治療（ヒーリングと治療札）が行われていた。病は悪霊の所為だという、認識があつたからだ。

しかし、心霊治療には莫大なお金がかかる。

故に、外科的治療が広がっていくにつれて、病の認識が改まり、どんどん廃れていったそうだ。

六道に心霊治療院ができ、ヒーリングの需要が増えれば、母さんや優子の職場の確保が出来るようになるだろう。

いや、守天寺家で治療院を持つことも可能になるかもしれない。そうすれば、守天寺家再興も夢じゃない。

「そうですね。」

オカルト分野も悪霊退治だけに拘らずに、
色々な分野で活動するべきです。

その分、GS協会は柔軟な考えを持ちつつ
厳粛に対応するべきです。

事なかれ主義では発展できません。」

「そこまで考えてくれているなら」

おばさん頼みやすいわ」

心霊治療院の設立の為に「貴方のお母様と妹さんに
協力してほしいの」

「はい？」

「心霊治療院の設立の為に「貴方のお母様と妹さんに
協力してほしいの」

「何故に？」

「心霊治療院の設立の為に「貴方のお母様と妹さんに
協力してほしいの」

「どうして？」

「守天寺の女性には「ヒーリング特化の霊能なのでしょう
びったりよ」

お母様には「六道除霊事務所に所属して頂いて」
妹さんには「六女に入学して貰いたいの」

「あのーその辺はー母と妹に相談して
現守天寺当主の父に了解を頂かないと・・・」

不味い、話が変な方向に向かつてる。

確かに、六道の庇護を得るのはいい話だし。

優子の六女への進学は美味しい話だ。

現在、守天寺の家計は火の車だ。

六女の入学金や学費など、払えるはずがない。

その原因は、俺にあるけど・・・

特待生とはいえ、独り暮らしは何かと物入りだ。

バイトしてるけど、東京の物価は高いよ・・・

しかも、プツン娘と、

他力本願な母親にたいして、俺以外を巻き込むのは了承出来ない。

俺はどれだけ悲惨な目にあってもいい。

命さえあればそれでいい。

だが、家族を巻き込めない。

しかも、優子を巻き込むのは御免蒙る。

それに、近い将来死津喪比女による大霊症が、

東京を襲うはずだ。

そんな危険な場所に家族を呼べるかああああああ

しかも、冥子さんがからむ事件って意外とあつた気がする。

前半の事件であれば、問題ない。

しかし、原始風水盤以降の事件には、

絶対に巻き込ませない。

家族をそんな危険に晒せるかああああああああ

「でもー守天寺君がいいならー

家族みんなこっちにくるーって言ってたわよー

妹さんは六女入学してもらってー

お父様のほうにー六道事務所所属になって貰うつもりだったんだ

けど

でも、今のお話を聞いたら、

お母様のほうに、所属して貰ったほうが、いいみたいね、

この話を、断るなら、断るで、いいんだけどね、

妹さん六女に編入出来るって、喜んでたみたいけど、」

そういつて、怪しい目線を送る六道当主。

俺は諦めた。

もう、こうなっちゃって、

母さんを、除霊に参加させないよう頼むくらいしか道はない。

実際、母さんあんまり除霊出来ないし・・・

後方支援は優秀だけどさ。

「わかりました。

春休みの最中に、家族をこちらに呼びたいと思います。」

俺は守天寺 守

家族を守るつもりが、いつの間にか家族を売り渡していた男。

父さん、母さん、豎之、優子、

本当にごめんなああああああああああああ

第7話

家に戻ってすぐ、家族に連絡を取った。

「母さん、ごめん。」

何か、面倒なことに巻き込んだみたいで・・・」

「さつき、六道さんから連絡があったわ。
いいのよ。」

こっちで暮すよりも、いい生活が出来そうだし、
何より、優子は喜んでるわよ。」

六女に編入できるって。」

豎之の学校も、六道さんが面倒みてくれるそうだし、
私も結構な額のお給料貰えるみたいなのよ。」

まあ、お父さんだけは、お仕事貰えないみたいだから、
一家の大黒柱としての威厳がくって叫んでたけど。」

因みに、優子は六女付属の中等部の3年生に編入するそうだし。
豎之も、近くの中学校に転校するらしい。」

母さんは、六道事務所所属のGS助手となり、
契約金やお給料など、かなり頂けるようだ。」

しかも、社宅まで用意して貰えるらしい。」

かなり羽振りがいいので、のちのちの要求が怖かったりする。」

「父さんは、どうするんだろう？」

「こっちでもGS助手として仕事をするの？」

「このままだと、ひも扱いになるから、
仕事したい。とは言ってたけど、」

でも、私のお給料で生活が賄えるなら、
仕事はせず、豎之に修行をつけてあげて欲しいわ。」

母さんは、守天寺の分家の娘であり、
父さん以上に、守天寺に誇りをもっている。
なので、俺の霊的格闘を覚えることに、
一番反対したのは母さんだったりする。
しかし、守天寺再興とかは考えてなく、
守天寺の霊能である、結界術とヒーリングを残したいという思いが
強いみたいだ。
なので、六道に下で働くことを嫌がってはいないだろう。
むしろ、今までの薄給GS助手よりも、
待遇が良い分、喜んでるようだ。

「母さんは、除霊に出ないように頼んでおいたよ。
心霊治療以外の仕事はしなくても大丈夫だよ。」

「それは、助かるわ。
それじゃあこっちは引越しの準備があるから、
契約事項や引っ越し先なんかは、
六道さんから詳しく聞くことにするわ。」

家族への連絡が終わり、
これからの事を考える。
原作開始は何時からなんだろうか・・・
美神令子の現在の年齢を考えると、
3年以内に原作開始するのは間違いないはずだ。
GS協会で調べれば、美神の情報はある程度手にいれられるのだが、
横島忠夫は現在一般人。
調べるには、探偵を雇うしかないのだが、

そんなお金はない。

美神事務所の情報を小まめにチェックしていくしかないよな。

そんな感じで、春休みが終わり。

守天寺家は、東京に引っ越した。

社宅として提供されたのは、

3LDKのマンションで、給料は基本給で20万＋歩合制とかなり破格だった。

まあ、これくらいの金額は、六道にとってははした金だろうが・・・
これで、家族みんなで住めると言っていたが、

俺は、現在もボロアパートに住んでいる。

豎之と優子も、独り部屋が欲しいだろうし、

父さんと母さんの部屋も必要だろうと思ったからだ。

この高待遇に、大いに凹んだのは現守天寺当主の父さんだ。
見に行った時、塩の柱になっていた。

あまりの姿に、GS助手の働き口を探してみた。

というより、勝手に就活して、原作介入されても困る。

守天寺の当主が、六道の下に付くのは抵抗があるだろうし、
美神事務所では、絶対働いてほしくない。

神父の教会を紹介しても、お金にはならん。

よって、守天寺の霊能を最大限いかせる小笠原事務所に足を運んだ。
後衛型GS、名家出身ではない、多分お金にがめつくない。

横島に契約金をキチンと提示したくらいだし、
能力があれば、それに見合った金額をきつとだしてくれるだろう。
ただ、原作に介入することで、

ブラドール島や、原始風水盤などの事件に巻き込まれてしまう。
父さんがいると、タイガーがエミさんの所に雇われないかもしれない。
いい。

よって、かなりの条件を付けての採用を申し込まなければいけない。

しかし、エミさんの事務所に父さんがいれば、ブラドール島事件が来れば、すぐに原作開始がわかるメリットもある。なるべく情報収集はするつもりだが・・・

「で、自分の父親の就職活動を手伝ってるってワケ？」

「父さんの能力は一流なんですけど、その能力をうまく使えるGSがほとんどいないんですよ。なので、私が調べてみたところ、

小笠原さんと組んで仕事をするのが一番だと思ひまして。」

「守天寺って確か結界術の霊能で有名だった家だったわよ。それが、呪屋と仕事してどうするワケ？」

「いえ、小笠原さんは呪術を得意としてるようですが、霊波攻撃での除霊をすると伺ってます。

しかし、その霊波攻撃ですが、打つまでに相当時間がかかるのか？」

「そこまで、調べてるワケ。

確かに、私の霊体撃滅波は打つまでに3分間かかるから、今は、その間肉の壁を使って時間を稼いでるわ。

その肉の壁よりも、強固な結界をあんたの父親は張れるワケ？」

「その辺りは、父の結界術を試してからで結構です。」

後日、父さんはエミさんの前で結界術を披露、

「あり得ないワケ、

なんで、十万円程度の結界札で、これだけ強力な結界が張れるの？

この結界、100万の結界札くらいの威力があるわけ」

「理由は簡単です。

結界札に込められた霊力だけで、結界を張る場合、込められた霊力以上の結界を張ることは出来ません。

勿論、発動するためには、霊力を込めなければなりませんが。しかし、守天寺はその結界札を通して、

自分の霊力を使って結界を張ることが出来るんです。

よって、結界札の値段以上の結界を張ることが出来るんです。

現在は、魔方阵を使って力を上下左右に広げていますが、

実践で魔方阵を描く余裕がない場合は、

結界を張るのに、最低でも5枚は必要になります。」

そもそも、霊符とは力を引き出すきっかけに過ぎないものだ。た

しかし、その理が現在は逆転しているのだ。

霊符が力となり、霊力は霊符の力を引き出すきっかけになっている。故に、多少の霊力があれば、

結界術を使用することも可能になっているのだ。

守天寺が行っている結界術は、

自身の霊力を、札を通して広げることにより結界を張ることが出来る。

ちなみに、守天寺の霊能は強固な結界を張る事となっているが、正確には、結界札の値段よりも強力な結界を張れる霊能となる。

正統になるには、札の値段より十倍は強力な結界を張れなければならない。

ちなみに、守天寺歴代最高と言われる豎之は、

1万円の結界札でこれと同じ威力の結界を張ることが出来る。

試験に合格した父さんは、

小笠原GS事務所のGS助手として働くことになった。

勿論、原作ブレイクしないよう、
色々な条件をつけさせて貰った。

- 1 . 長期の仕事になる場合は、本人の許可を得ること。
- 2 . 除霊作業以外での結界術は使用しない。
- 3 . 結界札は必要経費として、小笠原事務所負担とすること。
- 4 . 以上の明記の事を破った場合、違約金を払うこと。

この条件を取るのは苦労した。

- 1 は、正統後継者育成の為と納得して貰った。
- 2 は、呪い返し防止に使用したかったようだが、強引に納得させた。
- 3 は、あっさり了解してくれた。やはりどこかの守銭度とは違う。
- 4 は、当たり前だと言われた。

後は父さん、

頑張れええええええええええ

守天寺家が貧乏な理由は、

この結界札の料金が、必要経費として払われないことが原因だったりする。

場合によっては、かなり高価な結界札を使用することもあるが、それらの経費が一切出ないので、

報酬から経費を引くと、給料が横島並になってしまうのだ。

勿論、雇っているGSはそれが分かっているって経費として認めてないのだが。

第8話

その後、俺は普通に大学生活を送っていた。

優子は、六女に3年生に編入して楽しくやってるようだ。

豎之は、公立中学の2年に編入して同じく楽しくやってるようだ。

母さんは、六道の才力研と共同で心霊治療の有用性を実証実験している。

父さんは、小笠原事務所で頑張っている。

父さんの影響か、小笠原事務所が結構評判になっている。

今までの、肉の壁を使つての霊体撃滅波は、

一日に何度も使えるものではない。

むしろ、怪我が酷ければ数週間くらいは、使い物にならないこともあるだろう。

だが、現在父さんの結界術で守りは完ぺきだ。

その分経費がかかるが、多ければ一日に数件の除霊を行えるようになったのだ。

回転率があがることで、利益も増えているようだ。

現在、父さんが参加した除霊では、

純利益の15%を貰えることになっている。

このおかげで、守天寺家は今まではあり得ないほど裕福な生活が出来る。

そんな4月の終わりに、エミさんが俺を訪ねてきた。

「久しぶりなワケ。

守天寺さんのおかげで、うちの事務所は絶好調なワケ」

「それは、よかったです。

ところで、今日はどうしたんですか？」

と尋ねると、どうやら父さんに長期の仕事について貰う為に、俺に頼みに来たようだ。

父さんに長期の仕事を頼まれたら、

俺の許可なしに受けるなど言っておいたからだ。

一家の大黒柱だが、子供にはめっぽう弱い父さんは、素直に言う事を聞いてくれたようだ。

「それで、仕事の内容はどういったものになっているのでしょうか？」

「イタリアのブラドー島での仕事なのよ。

だから、どうしても守天寺さんには来てほしいワケ」

イタリアのブラドー島おおおおおおお
しまったあああああああ

最近のほほんとして、美神事務所を調べることも怠っていた。

もう、原作に突入してるのかあああああ

どうする？どうする？どうする？

ブラドー島なら、そこまで危険はなかったはずだ。

今回の件で、もし危険な目に逢えば、

次回の原始風水盤では断る口実になるかもしれない。

前回のような危険な除霊には、参加させませんと。

しかし、GS美神の面子なら飛行機から落ちても大丈夫だろうが。

GS美神のキャラは死なないだろうが

父さんは、ギャグ属性を持ってない一般人なんだ。

そこだけが心配だ。

それ以外なら、にんにく大量に持っていれば、

真祖に噛まれる心配もないだろうし、そこまで危険じゃないんだよな。

それに、真祖以外じゃ1000万の結界札使えば、父さんの結界が破られることなんてないだろうし。

それに、このままだとダイガーがエミさんのところに雇われないんだよな。

確か、エミさんが雇ってた肉壁って怪我でダメになったから、ダイガーってエミさんに雇われたんだよな。

でも肉壁達は、すでに解雇になってるし・・・

でも、退職金も払ったらしいし、次の職場も世話してあげたらしい。怪我することなく、職場を離れられたんだから感謝してほしいものだ。

なので、タイガーを雇う必要がないわけだ。

この報酬として、精神感応実験で必要だとしてもいつて、エミさんにタイガー探して貰うか？

タイガーいないと人間以上が出来なくなるんだよなあ。仕方ない。

父さんには行ってもらおう。

飛行機が落ちる危険があるから、その辺を注意すれば・・・

「イタリアのブラドー島ということは、

つまり相手は真祖の吸血鬼ということですか。」

「そうゆうワケ。

唐巢神父がブラドー島で吸血鬼退治をするんで、その助力を申し込んでいるってことらしいわ。

他のGSとは現地でミーティングだったかしら」

「今回はお引き受けします。

ですが、飛行機で島へ行く際は注意したほうがいいのかもかもしれません。

吸血鬼自体は昼間行動出来ませんが、

そうやって油断していると思い、

眷族である、蝙蝠で襲撃をしてくるかもしれません。

眷族であれば、昼間でも動けますからね。

飛行機に乗ってる状態で、襲撃を受けたら一溜まりもありません。お金はかかりますが、飛行機全体に結界を張って貰ったほうがいいですね。」

「確かにそうかもしれないわ。

それより、おたくはGSでもないのによく知ってるワケ。」

「これでも、GSを目指してましたからね。

今は、霊力も錬れない単なる一般人ですが・・・」

「おたくが落ちる試験に問題があると思うワケ。

守天寺さんが言ってたけど、

おたく、結界術は守天寺さんくらいの實力はあったって聞いたわ。でも、それだとGS試験に合格出来ないからって、無理やり霊的格闘を習ったみたいね？」

「そうです。

でも、それは失敗だったと今では思ってます。

なので、優子や豎之がGSとして活躍出来るようなんとか、試験自体を変えていこうと思ってます。」

「勿体ないワケ。

おたくが今も結界術を使えてたら、うちでこき使ってたワケ」

「本当に残念です。

エミさんと守天寺結界術はめっぼう相性がいいですからね。」

そう言つて、エミさんは帰つていった。

そのまま父さんの元へ向かい、エミさんに言つた注意点を話しておいた。

日本からにんにくを持っていくのは無理なので、

イタリアで買うように言つておいた。

結界札は、出し惜しみなく高価なものを使えるようにエミさんに頼んだし、

これで、飛行機が落ちる心配もないだろう。

そして、一週間後無事父さんは帰つてきた。

やはり、飛行機は蝙蝠に襲われたらしい。

しかし、事前に父さんが結界を張つていたので、

そのまま無事着陸することが出来たようだ。

その後、多少変更はあつたようだが、

概ね原作通り進んだようだ。

全員が、常ににんにくを持ち歩いていたので、

エミさんは、吸血鬼にならなかったようだ。

横島は、何故か噛まれたそうだが・・・

なので、ピートはにんにく臭のせいで終始発狂しそうだったそうだ。

その後、ブラドーは無事封印され、

その帰り道、美神さんのヘットハンティングされそうになったらしいが、

時給720円の提示に呆れたそうだ。

でも、美神さんにしては奮発したのかな？

東京都の最低賃金よりは上だから。

息子に断りなしに、職場を変えるわけにはいかないと、断つたそうだが、

父さん、そこは普通に断ろうよ・・・

現守天寺当主なのに、それじゃ舐められるって

まあ、無事に終わってよかった。

俺が言えることは、

イケメンピートさまあああああああああああ

第9話

ブラドール島の事件が終わってから、もう2週間が過ぎた。

3日前から、小笠原事務所は休業している。

父さんをブラドール島に連れていく条件として、

強力な精神感应能力者をエミさんに探して貰うように頼んだからだ。

エミさんは約束を守り、ブラドール島事件後、

精神感应能力者を探してくれたそうだ。

そして、見つけ出したそうなので、今迎えに行ってくれている。

原作でも、姉御肌のな部分はあったけど、

実際に会ってみると、かなり優しい人だ。

美神令子と美形が絡まなければ、能力は一流だし、

こちらの意見も尊重してくる。

その為、仕事が暇になった父さんは長期休暇とり、

母さんと一緒に温泉旅行に行っている。

久しぶりの夫婦水入らずの旅行だ。

結婚してから、貧乏生活の所為で、

俺達は家族旅行をしたことがない。

まあ、今は学校があるので無理だが、

夏休みには、家族で北海道に行く計画を立てている。

優子も豎之もかなり楽しみにしているので、

結構真剣に旅行計画を立ててたりする。

原作がついに始まってしまった。

横島への接触は、GS試験が終わってから行うつもりだ。

霊能力に目覚めてない状態で、接触してもほとんど意味がない。

原作では、美神さんは横島に対して、
霊力の基礎的なトレーニング方法を教える描写はなかった。
まあ教えてないだろう。

教えてても、横島が実践してないんだろうなあゝ
修行とか嫌いなタイプっぽいし。

なので、GS試験終了後すぐに接触して、
霊力の基礎的トレーニングを教え鍛えるつもりだ。
出来れば、年内にも死津喪比女の除霊を行うべきだ。
なるべく早く、死津喪比女を倒せば、

東京に影響を起さず、力も原作よりも弱いはずだ。

でも、織姫イベントは消化しておいたほうがいいかも知れない。

あれ、最初のクリスマスイベントだから、

まだ、こっちでは消化してないんだろうなあゝ

こちらで、横島へおキヌちゃんにプレゼントでもしたほうがいいと
忠告して、

強引にイベントを消化しよう。

早ければ早いほど死津喪比女の除霊はいいが、

横島が霊力が低い状態で、死津喪比女に当たるのはよくない。

その辺りの見極めが至難だな・・・

それに、あまりに早く消化すると、

おキヌちゃんが、横島達を思い出さない可能性もあるし、

おキヌちゃんイベントはなるべく消化していかないとまずい。

別に、横島×おキヌちゃん狙ってるわけじゃないけど、

あの子とルシオラがいたことで、

横島は成長出来たようなもんだしな。

それから3日後、エミさんが帰ってきました。

勿論、影薄虎を連れて。

よかった。

ここで、他の精神感應能力者を連れてきたらどうしよかと思ったよ。エミさんに頼んで身元保証のために、

一応小笠原事務所でGS助手ってことにしてる事になっている。

GS助手かGS推薦がないと、GS試験受けられないし・・・

まあ2回戦で雲念だか珍念だかに倒される運命だけだな。

そんでもって、近くの高校にも編入したそうさ。

多分、横島と同じ高校だろう。

ついでに、ピートも現在唐巢神父の元で修業しながら、

高校に編入したらしい。

ここまでは、原作通り。

でも、タイガー悲しい事にエミさんのところでは仕事がない。

精々、書類整理の手伝いくらいしかしてないらしい。

時給は知らんけど、大して貰ってないみたいなので、

オ力研と共同で行っている

精神感應の実証実験でのアルバイトしてもらっている。

まあ、名目はそのために呼んだんだしね。

だって、除霊にでも意味ないんだもんダイガー・・・

肉の壁つてもうエミさんに必要ないし。

エミさんも、

「こんなの除霊にだして、怪我でもされたら困るワケ！」

って言うてたしね・・・

まあ、一応師匠としてトレーニングはしてやってるみたいだ。

しかし、タイガーのアルバイト時給1万円って高すぎだろ。

あの影薄虎に時給1万とかありえん・・・

オ力研のほうから、この研究にかなりの資金が出てるので、

問題は全然ないんだけど、

こんなことなら、研究者として名を馳せればよかったと後悔の真っ最中です。

まあ、タイガーが来てくれたお陰で、思考の共有を行うことで、

命令系統や意思疎通にタイムラグが起こすことがなく実行出来る。という結果を出すことが出来た。

のちにこの結果をオカルト論文として発表し、研究メンバーは、脚光を浴びることになる。

以後、オカルトGメン日本支部では、

精神感應能力者の採用にやっきになった。

この実験の最中、

「わっしは、わっしは、女子が怖いのですジャ~~~~~」

といって逃げ回って、何度も実験をダメにしたのは、

実験時間が長くなれば、その分給料が増えるのを狙っていたのだろうか？

セクハラ虎のくせに。

勿論、カオスの爺さんにも研究は手伝わってもらってる。

カオスの爺さんに任せたのは、霊力の質を測る装置の開発だ。

これ自分の失敗から考えにいたっただけど、

俺は何故か、攻撃に霊力を回すことが苦手だ。

神通棍に霊気を注いでも、うまく増幅してくれないので、

ほとんど攻撃力を持たない。

なんで、こんな事が起こるのか不思議だったんだけど。

個人の霊力には、質みたいなのがあり、

その質によって、得意な霊能が異なるんじゃないかと考えたのだ。

某休載中漫画の力みたいにな、

強化、変化、放出、操作、具現、特殊みたいに

霊力にもそういう感じのものがああるんじゃないのかと思い、

この実験を試みることにしたのだ。

でも、この実験はどこから手をつけていいのかわからないし、俺の推測が、当たってるのかさえわからない状態だった。

なので、ほとんど手つかずだったのだが、

カオスの爺さんに協力を要請して装置の開発が行われた。

さすがは、ヨーロッパの魔王凄すぎる。

まさか、3日で作るとは思わなかった。

それにより、人によって霊力に微妙な違いがあることがわかったのだ。

今、この装置を使い様々な霊能者の霊気測定を行っている。

もし、この推測が実証されれば、

霊力の質を図ることにより、

自分に一番あった霊能を学ぶ判断材料になるだろう。

それにより、GSの質は向上するはずだ。

つか、本当に研究者になればよかったorz

そしたら、特許料とかでウハウハだったんじゃないだろうか・・・

まあ、研究者になっても、アイデアだすだけで、

こういった装置を作れなかったから、

無理だったとは思っただけだね。

現在も、アイデア料は貰ってるから文句はないんだけどね。

そういえば、原作のエミさんは、

タイガーを使って美神さんに嫌がらせしてたけど、

こっちでは、そんな事はしてないようだ。

その理由はエミさんの事務所が、

4月の月間除霊数&除霊報酬で初めて美神事務所を抜いたらしい。

GS協会ではそういった記録を公開してるそう。

GS免許持ちしか閲覧できないらしいけど。

タイガーを紹介された時に、

タイガーの紹介は30秒で終わって、残りの全部この話題だった。

エミさんよっぽど嬉しかったんだろうな。

まあ、父さんが結界術を張って、

エミさんの霊体撃滅波で除霊するのって、かなりお得な方法なんだよね。

かかる費用も、父さんのお札代だけだし。

今までと違って、がんがん撃滅波打てるから、

どんどん除霊しまくってるらしい。

どっかの守銭度と違って、エミさんはきちんと15%渡してくれるから、

父さんもかなり張り切ってるし。

最近、エミさんが弟の豎之を取り込もうとしてるらしいけど、豎之が怖がって俺に連絡してきたよ。

「兄さん、最近俺を見るエミさんの目が怖いんだけど……」

つてね。

あんたピート狙いじゃなかったんかあああああ

まあ、豎之の嫁さんになって、

守天寺家の姓になってくれるなら俺は応援しますけどね。

お幸せに
いい
いい
いい
いい
いい
いい
いい
いい
いい
いい

第10話

今回は、牛井特盛り卵付きを持って、唐巢神父の教会へ向かっています。

どうせ、飢え死にしそうになってるだろうと思って持ってきました。原作読んで不思議だったんだけど、

なんで六道さんは、この人に六女での外部講師を頼まなかったんだろっ？

この人の評判と実力なら、

六女の生徒に有意義な授業してくれると思し、年に数回の特別講師とかなら頼んで断られたりしないと思うんだよね。

それに、その授業への報酬を払えば栄養失調で倒れたりしなくなるし。

って事を六道さんに話したら、

「それじゃあ、守天寺君が、お願いして来て」

と言われましたとさ・・・

一応授業あるんだけどな

まあ、何故か俺と才力研に内定貰った奴は、

授業に出なくても卒業できるらしいけど・・・

あいつ等、今日まで一度も授業に出てないんだよね。

それを心配して聞いてみたら、

六道当主直々に、

「大丈夫よ、授業に出るより」

実験してくれたほうが嬉しいわ

単位は、必要な分だけあげるから心配しないでいいわよ」

って言われたってさ。

いいのかそれで、教育者としてそれでいいのかと
小一時間ほど問い詰めたい。

仕方ないとは思っけどな。

授業に出るより、実験してたほうが六道にとってプラスになるし。
何故か、研究チームはすでに給料支払われてるし。

アルバイト契約だろうけど、

支払われてる給金が、すでにアルバイトの額じゃない。

まあ、俺は基本授業に出てるし、

実験には参加してないから、まあいいんだけどさ。

「すいませ〜ん。

唐巢神父はいらっしゃいますか？」

そっいつて教会の中に入ると、

唐巢神父はぶっ倒れてました。

恐らく栄養失調でしょう・・・

すぐさま、持ってきた牛丼を食べさすと、

神に感謝してガツガツとかっこんでます。

「本当にありがとう。

おかげで助かりました。」

「いえいえ、こちらを訪ねる際には、

何か食べる物を持っていくといいと知人に教えられたのですが、
持ってきて本当によかったです。

貴方のような素晴らしいGSが栄養失調で亡くなるのは、
オカルト業界の大損失になりますからね。」

「いえいえ、

ところで本日はどういったご用件でしょうか？

何か霊障にお悩みですか？」

「いえ、本日お伺いさせてもらったのは、

六道女学院での、外部講師をお願いしたいと思ってきました。

GSの卵である六女の生徒に、

GSとしての活動についてお話して頂ければと思ひまして。」

挨拶もそこそこに、六女での外部講師の件についてお願いしてみた。忙しいとのことなので、定期的な講師は無理だと断られたが、こちらとしては、時間が空いた時にでも、

六女で特別授業を行うだけでいいと説得し、

何と了解して貰った。

この人、そんなに忙しいのかね？

「近いうちに、あいてる時間がありましたら、

六道当主のほうに連絡してください。

唐巢神父の授業を待っている生徒がいると思いますので。」

「近いうちに連絡させてもらいますよ。

ところで私は、その授業でどんな事を話せばいいのかな？」

まあ好きな事をしゃべって貰っていいんだけど、

ここは、生徒の為にも

軽く言っておくか。

「何を話して貰っても結構なんですが、

個人的には、除霊の際に起こりやすいトラブルや失敗など、

現役のS級GSとして語って貰いたいのですね。
実際、自身の失敗談を話してくれるGSはあまりいないんですよ。

個人の英雄譚を話すほうが、本人としてもいいでしょうが、生徒に本当に必要なのは英雄譚ではないのですからね。」

俺は、GSに必要なのは勇気や積極性はなく、慎重さと柔軟性だと思っている。

猪突猛進で除霊を行うGSに待っているのは廃業か死亡しかない。なので、プライドの高い六女の生徒にはその辺りを学んでほしいのだが、

いかんせん、外部講師で来るGSはあまりその辺りを話してくれないらしい。

まあ、生徒受けするような話ではないし、

六女でそう言った話をするとか、

オカルト業界でも、臆病とレッテルを張られる危険性もある。

なので、聞こえのいい個人の英雄譚ばかりが教えられ、

結果、六女卒のGSは英雄思考に陥っている。

「確かに、先輩GSとして、

後輩にそういった話をする責任がありますね。

わかりました。

私が授業をする際は、除霊の危険性について話そうと思います。」

本当は、美神さんにこういった話をしてもらいたかった。

あの人は、六女ではもはや尊敬を通り越して、

崇拜されている。

そういったGSでも、失敗することはあるし、

逃げることもあると知れば、

六女の生徒も真剣に考えてくれると思うんだが。

「ところで唐巢神父、

失礼ですけど、何故唐巢神父ほどのGSが空腹で倒れていたのですか？」

まあ理由知ってるけどね・・・

「いや、お恥ずかしい。

だがね、私は貧困に喘ぐ人から高額な除霊料を貰おうとは考えていないんですよ。

その所為で、こんな状態なのだがね。」

「つまり、GS協会に除霊依頼を通せないような弱者を対象に除霊を行っているのですね。」

「そういつた人ばかりじゃないがね。」

私は、除霊を行い高額な報酬を貰う事に抵抗があるんだよ。

確かにそれは素晴らしい考えだけど、

「それはつまり、

GS協会經由の依頼や、

企業の依頼でも高額な報酬を受け取っていないということですか？」

「神に仕える身としては、どうもね。」

このおっさんわかつてねえええええええ
自分が犯罪を犯してると気が付いてないよ。

「失礼ですが唐巢神父、

これ以上GS協会経由の仕事や、
企業からの依頼で報酬を受け取らないようなら、
貴方をダンピングでGS協会へ訴えます。」

ダンピング

正当な理由がないのに商品又は役務を、

その供給に要する費用を著しく下回る対価で継続して供給する行為。

その他、不当に商品又は役務を低い対価で供給する行為。

これにより、他の事業者の事業活動を困難にさせるおそれがあるものの。

唐巢神父のやってる事って、バリバリこれに当たってますがな・・・
貴方が、ランクの高いGSじゃなかったら大丈夫だったかもしれないけど、

あんたS級なのにそんなことやってたら、
他のGSはおまんま食いあげだったの。

「訴えるってそんな乱暴な。」

「GS協会から苦情とか来てないですか？
支払能力のある方からも報酬を受け取っていないのであれば、
思いつきり該当しますから犯罪ですよ。」

神父の顔が青くなってる。

こりゃ、協会からも苦情が入ってるな。

協会のほうも、協会では面倒見切れない、弱者救済を行っている面で強くは出てないようだけど、

「以後、ダンピング行為を発見した場合、

GS協会へ訴えて、免許取り消し処分の要請をさせて頂きます。
なので、これからはしっかりと報酬を貰ってくださいね。」

まあ、俺なんかが要請だしたって鼻で笑われるだけだろうけどな。
そう思いながら、俺は教会を後にした。
唐巢神父の教会からは、

神よおおおおおおおおおおおお

と叫び声が聞こえていたが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6095s/>

GSお家再興物語

2011年5月1日11時42分発行